

2025年版 世界のオープンソースの現状

オープンソースは、AI、DevOps、データベース、オペレーティングシステム全体で40~55%の採用率で、**ミッションクリティカルなインフラ**を支えています。



回答者の38%によると、AIはオープンソースであることから最も恩恵を受ける技術です。



83%がオープンソースを**組織の将来にとって価値がある**と考えており、46%が2024年と比較してビジネス価値の増加を報告しています。



明確なガバナンス構造を持つ組織は少なく、OSPOを保有しているのはわずか26%、明確なオープンソース戦略を定義しているのは34%です。



組織の71%は、オープンソースソフトウェアのサポートプロバイダーからの**応答時間を12時間未満**と期待しています。



53%が**長期サポートの保証**を期待し、47%がオープンソースソフトウェアの迅速なセキュリティパッチ適用を期待しています。



ミッションクリティカルなワークロードには**有料サポート**が不可欠と考える組織は54%、機密データを扱うシステムには43%となっています。



組織は**断片的なセキュリティアプローチ**を採用しており、単一の保証メカニズムが広く採用されていません。



コミュニティの健全性は特に重要であり、44%がオープンソースコンポーネントを評価する際に活動レベルを確認しています。



組織の72%は、OSSプロジェクトへの参加が**組織の競争力を高める**と述べています。



調査対象となった専門家の78%は、オープンソースが**組織の職場環境をより良いものにする**と信じており、74%は人材誘致のメリットを挙げています。



スタッフの知識とスキルの向上 (77%)とソフトウェア品質の向上 (76%)は、OSSへの貢献による**組織への最大のメリット**です。

